

## 2023 年度上野千鶴子基金助成金最終報告書

1.助成金対象事業	SDGs の諸課題の解決に向けた活動
2.事業の区分区	一般プロジェクト
3.氏名/団体名	特定非営利活動法人ひだまりの丘
4.事業名	若年女性居場所利用者の活躍推進事業
5.助成額	
6.事業実施期間	2023 年 9 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

### 7.事業の目的

当法人が取り組んでいる若年女性孤立予防事業の中の居場所スペース（家でも学校でもない第三の居場所・性のことを気軽に話せる居場所）の開放と共に、様々な困難を抱えている若年女性に対して自己実現の機会を提供します。

### 8.実施内容

居場所利用をする若年女性の多くは家族関係不調で機能不全な家族で育ち、性被害等あらゆる暴力にさらされてきた女性が少なくありません。自己選択や自己決定を否定されてきた経験が多く、自己肯定感、自信が低く、無力感を感じていることから自己実現能力を発揮することができずにいます。大小問わず、彼女たちの「やってみたいこと」を実現するために、居場所スペースの開放とともに発案～準備～実現の過程の中で彼女たちの自己選択や自己決定を尊重しながら実現まで伴走し、自己実現することで自らの中にある可能性を自覚し、広げることに繋がります。

### 9.事業の成果と自己評価

#### <事業の成果>

居場所スペースを利用する若年女性たちからやりたいことを募り、企画は有志プロジェクトチームを組んで取り組みました。大きなイベントは「居場所スペースに置く本を選ぶ会」「カードゲーム大会」「レジンワークショップ」「性病検査・ピクニックツアー」の4つです。その他、プロジェクトチームをつくらずともできる様々な小さなイベントも日々行いました。精神疾患を抱えている利用者も多く、やりたいことを開示してくれたものの「プロジェクトチームを作り、企画運営をしてみよう」という投げかけに賛同できるまでのパワーがない場合は、当日の居場所スペース利用者の中で有志を集め話し合い「会議」ではなく「対話」ベースで企画をし、自己実現ができるような流れで取り組みました。小規模イベントの例は下記です。「焼肉パーティー」食卓でホットプレートで食事をしたことがない「おかしづくりワークショップ」（おかしづくりが得意。誰かに教えてみたい）等。

#### <自己評価>

今まで自分の考えを周りの大人に尊重されず、否定され、「一人では何もできない」存在として扱われてきた利用者が「やってみたいこと」を開示することはハードルが高いと感じた為、居場所スペースでの日々の関わりで信頼関係構築を重視しながら行いました。後半に向かい信頼関係が構築されたこと、自己実現をしている他利用者を目にしていたこともあり、想像以上にやりたいことの開示がありました。その為、申請時の計画よりも多く自己実現イベントを開催することができました。開示した女性たちが

らは「やりたいと言ったことを実現しようと一緒に考えてくれて、嬉しかった。できるか不安だったけど、とても楽しかった。」「今まで何か意見を言っても【あなたには無理】と言われてたり、親が決めたことしかやらせてもらえなかったので、とても嬉しかった」等の声を聞いています。今回の取り組みに限らず、これらの経験を継続していくことで自分自身の可能性を最大限発揮できる土台をつくっていきたいと思います。

#### 10.成果物

写真：購入した図書 合計 3 枚

報告書：令和 5 年度若年女性孤立予防事業活動報告書 1 部